



見たい! 知りたい! ブラウザーの向こう側

いつも何気なくインターネットを使っているけれど、ホームページの制作現場やインフラ関係の工事など、その舞台裏は意外と知られていないもの。このコーナーではあまり見る機会のない現場の様子を紹介します。

インターネットマガジン編集部
photo: nakamura tohru

今回の訪問先: 株式会社NTTテレカ

URL <http://www.ntt-teleca.co.jp/>

問い合わせ先: TEL 0120-686858

E-mail: frame@ntt-teleca.co.jp



インターネットの 仕事場 探訪

1枚から作れる オリジナルテレホンカード

株式会社NTTテレカ

画像を送るだけでテレカができる

携帯電話が普及しているこのご時世でも、なにかと重宝しているテレホンカード。市販されているデザインのほかに、結婚式やお店の開店の記念品など、オリジナルデザインのテレカも当たり前になりつつある。そのオリジナルテレカをインターネットで1枚から作れるのが今年9月10日にスタートした「NTTテレカ」の「フレームカード」だ。

従来のオリジナルテレカだとある程度まとまった数でしか注文できなかったが、このテレカはインターネットで送られた画像を専用のカードプリンターで印刷するため、1枚からでも制作できるのだという。これならいちいち写真を持ってショップに行かなくても、簡単にテレカを作ることができる。

しかし、いかに簡単だとは言っても、テレカ用に画像を加工したり、カードに印刷したりするには手作業が必要だ。そのあたりの様子を探るべく、NTTテレカにおじゃまることにした。

必要なのはパソコンとプリンターだけ

今回はあらかじめ本誌編集スタッフの写真をメールに添付して送っておき、それを加工



受付の前に立つ川崎さん。手前にはさまざまな種類のテレカが。



今回メールに添付して送った画像（GIFかJPEG形式）タレントやアニメのキャラクターの画像は×。



フォトショップの画面。写真ごとに違うレイヤー（階層）に入れて作業する。こうしておく、あとで直しやすいのだ。

オリジナルテレカができるまで



受注書を見ながらフォトショップで画像を加工。画像の大きさを調節するほか、明るさや色味を加減することも。



注文主に確認したあと、画像をプリンターに送信して試し刷りをする。写真がテレカ専用のプリンター。



プリンター専用のインクリボン。ロールが回転すると、ブラック、シアン、マゼンタ、イエローの順にインクが重なって印刷される。

するところから印刷してテレカにするまでを取材しながら見せてもらうことにした。

東京西新宿のNTTテレカ本店のあるビルに入っていくと、担当の川崎一友さんがにこやかに迎えてくれた。

通常のテレカ申し込み受け付け窓口の脇にちょこんと置かれたパソコンとプリンター各1台。フレームカードを作るのに必要な機材はこれだけだという。これでほんとにできるのだろうかかと不安に思っていると、川崎さんがひとつとりのシステムを説明してくれた。

フォトショップで画像を加工

まず、送られてきた画像は画像加工ソフト「フォトショップ」で加工される。ぼやけた画像をシャープにしたり、暗い画像を明るくしたりと、ある程度の加工をしてくれるそうだ。

今回は編集部員3人の写真をそれぞれプリクラ風のフレームで囲ってもらうことにした。デザインはNTTテレカのホームページにあるさまざまなサンプルの中から気に入ったものを選んでもいいし、自分で作ってもOKだ。注文してくる人の半数は全体のデザインやフレームを自作してくるといふ。

こうして作られた画像をメールで注文主に送り、確認を取ったのち、テレカと同じ材質（PET樹脂を使用）の試し刷り用カードに印刷する。この際使用するプリンターはテレカマルチカードプリンターといって、テレカやPVC（塩ビ）カードに印刷ができる昇華型熱転写方式のものだ。

プリントを実行してから待つこと約3分。印

刷されたカードが出てきた。通常のテレカよりもこちらのほうが光沢がある。

「プリンターにマッキントッシュとデジタルカメラをセットすると、自動的に画像加工してプリントするソフトがあるので、ここ以外の場所でもこれらの機材さえ揃っていれば、比較的簡単に作れるんです。先日も高校の学園祭の会場でテレカを作りました。卒業式の写真をその場でテレカにして卒業生に渡したり、企業のパーティーのおみやげにしたりという使い方も考えています」（川崎さん）

メールでもお互いの顔が見えるようなコミュニケーションを

サービス開始当初は20代OLからの注文が多いと想定していたそうだが、いままでも注文はほとんど30～40代の男性からだったという。このサービス自体もお客からの要望で始めたそうだ。

「お客様から写真をメールで送るからテレカにしてくれという要望があったんです。うちでもそれは考えていたんですけど、すでにほかでそのようなサービスが始まっていたので、何か付加価値をということでプリクラのフレームを付けてみたんです。フレームとメッセージを500点ほど用意しました」（川崎さん）

ただ、画像を扱うだけに注文した人の納得がいくようにするのはなかなか大変なのではないだろうか。

「インターネットだとどうしても機械的になってしまうので、なるべくメールでこちらの感情の部分を出すようにしています。お客様の



できあがったテレカ。クリスマスやお正月などのバリエーションも新たに登場する予定。中央左に本誌で制作した怪しいテレカが…。

ほうは写真を送ってくれるので、どういう人がニュアンスが伝わって来るんですが、お客様はこちらの様子が分からないわけですよ。こちらのことはメールでしか伝えられないので、なるべく言葉で表現するように努力しています。通常メールでの問い合わせに対してはフォーマットを考えているんですけど、今回のフレームカードの場合はフォーマットを作らずに一件ごとに対応しています」（川崎さん）

今後は一般からデザインを公募したり、企業のマスコットをデザインに追加したりすることも計画中だとか。使い方次第でいろいろ楽しめそうなこのテレカ、1枚作ってみてはいかがでしょうか？

相手の顔が見えないインターネットだからこそ、お客とのやり取りに気を遣うスタッフの姿が印象的でした。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp